

学 校 教 育 目 標	進んで学び 高め合う 北小の子
目 指 す 学 校 像	伝統と創造・新たな時代の創り手となる若い力を育てる学校 ～ Well - being 一人ひとりが幸せになる～
重 点 目 標	1 主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業の改善（学びの質の向上） 2 夢に向かって努力する豊かな心と健やかな体の育成（発達や心のサポートの推進） 3 協働・連携による潤いのあるコミュニティ・スクールの発展（家庭・地域とともにある学校づくり） 4 安心・安全を守る学校管理の徹底（教育環境の整備と充実） 5 新たな教職員の学びの姿や働き方マネジメントの具現化（教職員のキャリア形成の構築）

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○ICTの機器の活用度は高まった。効果的に活用ができたという教職員も昨年度 76.9%となり、様々なアプリを授業で活用できるようになってきている。 ○全国及び市の学習状況調査の結果から、全体的に学力は高いと言える。また、「話し合い活動が好き」と答えた児童が昨年度 84.5%に達した。 <課題> ○クラウドの活用頻度を高め、クラウドを活用した効果的な授業展開の工夫を研究する。 ○個別最適な学びと協働的な学びを関連付けた授業展開を研究し、実践的な取組を行う。	・SSSPの効果的な活用と新しい教育アプリの活用による授業改善	①校内でSSSPに関わる研修を充実させる。また、ICT機器の活用をした授業改善を図る。 ②クラウド環境を有効活用した教育活動の実践に取り組む。	①校内でSSSPを活用できているか。 また、新しいアプリケーションを活用した授業実践を行っているか。 ②授業の中で、児童がクラウド環境を活用した活動の実践を行ったか。					
		・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な創出	①個別最適な学びと協働的な学びを関連付けた授業の手立てを工夫し実践する。 ②授業及び学校行事における協働的な活動と振り返りの時間を充実させる。話し合い活動の工夫により学び合いの力を向上させる。	①「学校は、分かりやすい授業を行い、個に応じた学習指導の充実に努めている」の肯定的な評価が85%以上になったか。 ②「話し合い学習が楽しい」と回答する児童が80%以上を維持できているか。					
2	<現状> ○学校自己評価に係るアンケートで「より良い世の中を作っていきたい」と回答する児童が91.8%になり、発達段階に応じた心を潤す行事や取組の成果が上がった。 ○児童理解に関する研修、個別のケースカンファレンス、SC、SSW等との連携による相談等により、教育相談体制が強化した。 <課題> ○全体的には自己肯定感はまだ低めであり、個々の児童がもっと自信をもってよい行動に移すことができるよう、ニーズに応じた環境づくりの工夫がさらに必要である。	・特別活動の充実と児童自ら取り組む場の設定	①児童が立案実行可能な企画を設定し、児童に達成感を味わわせる。 ②児童の活躍の賞賛や価値付けを明確に提示する機会を設ける。	①学校自己評価に係るアンケートで「より良い世の中を作っていきたい」と回答する児童が90%台を維持できたか。 ②朝会、掲示等様々な機会により活躍を紹介できたか。					
		・教育相談体制や生徒指導体制等、組織力強化	①チーム学校として、全教職員が児童の情報を共有し、児童の成長を複数の目で観察し、多面的に支援・評価する。 ②Solaの一むを始め、個の特徴に応じた対応ができる手立てや場所等、一人ひとりを大事にできる方策を構築する。	①面談、研修、ミーティング、ケースカンファレンス等、児童把握や児童理解、相談等に係る体制が作れたか。 ②チーム学校として、教職員の知恵と人材を活用し、方策を構築できたか。					
3	<現状> ○学校運営協議会による熟議により、「豊かな心を育む」というテーマが決定した。 ○学校HPではブログを開設した。多くの保護者が閲覧し、好評である。また、スクリレによる配信が始まり、情報周知が円滑になった。 <課題> ○家庭・地域とともにある学校の推進を目指し、学校HPを始めとして、教育活動を保護者や地域に適切に公開する。	・家庭・地域とともにある北浦和小ネットワークの構築	①学校運営協議会に代表児童が参加し、ともにコミュニティ・スクールを発展させるという意識を高める。 ②「豊かな心を育む」という共通なテーマの実現のため、学校・家庭・地域が創り手である意識を高める。	①学校自己評価に係るアンケートで「学校運営協議会の活動が分かる」と回答する保護者が70%以上になったか。 ②「豊かな心を育む」というテーマの実現のため取組が実施できたか。					
		・教育活動の公開やHPの充実による学校発信の推進	①学校行事を計画的かつ適切に公開し、公開の良さを検証する。 ②学校HPのさらなる充実とブログの更新を行う。 ③創立80周年記念事業の実行委員会を立ち上げ、企画の大枠を決定する。	①学校自己評価に係るアンケートで「教育活動を積極的に公開している」と回答する保護者が80%以上を維持できたか。 ②学校HPの更新が適切か。 ③創立80周年事業が見通せたか。					
4	<現状> ○児童数の増加により、教室数や空間的なゆとりを確保することが難しい。教室の床や昇降口等施設設備の老朽化も進んでいる。 <課題> ○リフレッシュ工事に伴う教育環境の変化に対応するため、教育活動の柔軟な対応が迫られる。	・児童の心に潤いを与える教育環境の整備	①教育環境のユニバーサルデザインの構築を進め、緑化、掲示、整理整頓、整備等、安心できる環境をつくる。	①ふれあい花植え、人権の花活動を始め温かい教育環境づくりが充実できたか。					
		・安全・安心な学校の実現に向けた土台の強化	①安全に学校生活を送ることが出来るように施設設備の安全点検を徹底する。 ②持続可能な取組の実現のため、PDCAサイクルに則り、評価改善を行う。	①危機管理体制ができたか。 ②迅速な対応ができる組織力があるか。 ③日々の安全点検はできたか。 ④緊急度が高い案件の解決ができたか。					
5	<現状> ○ベテラン、中堅、若手の組織構成である。前向きで協力的な教職員チームである。学校課題研修を始め、各々の研鑽も惜しまない。 ○中・高学年の教科担任制の導入、会議の簡略化、Teamsの活用等、働き方マネジメントが進んでいる。 <課題> ○新しい教育界の動きを理解するための学ぶ場を活かし、指導力向上が必要である。 ○ワークライフバランスを踏まえた工夫をする。	・教員の指導力向上に向けての研修の実施	①教職員が主体的に研修ができる時間を確保し、資質向上を図る。 ②教職員の「キャリアNavi」を活用し、自己研鑽のテーマにも取り組む。	①教職員の資質向上のため、一人ひとりが主体的に研修ができたか。 ②ICT活用を含めて自己研鑽を進め、実践に活かせたか。					
		・教職員のアイディアを生かした働き方改革の推進	①より効率的な学校運営が進められるように、行事等の見直しや会議の精選を図る。 ②計画的に業務自体の削減を図り、時間外在校時間の縮減を図る。	①業務改善マネジメントが実施できたか。 ②新しい働き方改革のアイディアが提案されたか。					